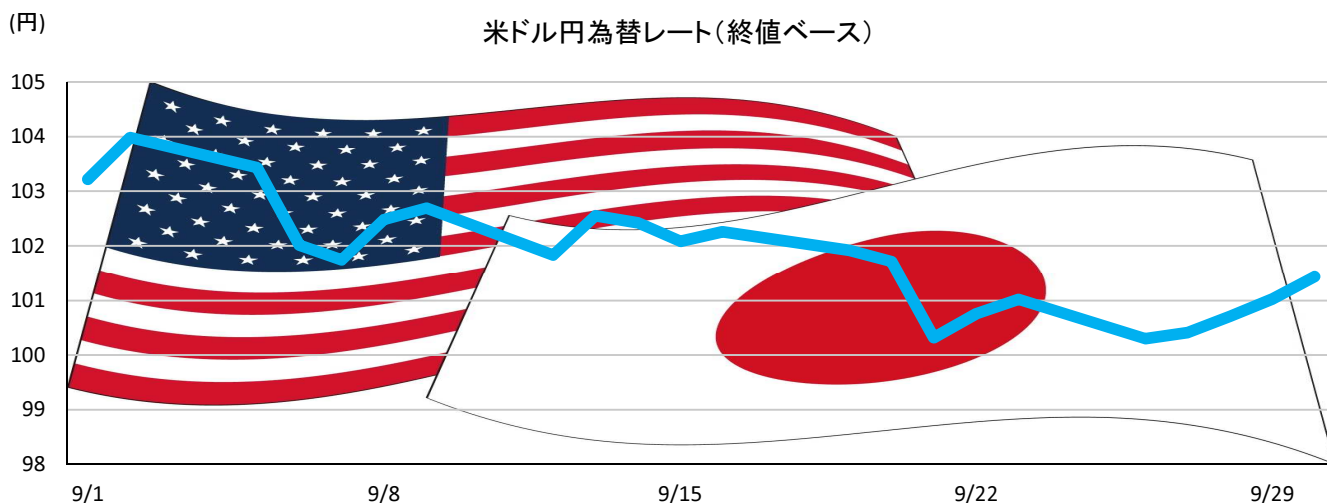


## MARKET REVIEW

**先月の振り返り:** 9月のドル円相場は、100円～104円前半の幅で推移。米雇用統計は市場予想よりも弱い内容だったことからドル売りが進んだものの、利上げを先送りにするリスクが台頭したこともあり、一転ドル買いが進んだ。中旬に日銀金融政策決定会合とFOMCを控えている中、浜田内閣官房参与が「FOMC前の日銀追加緩和は控えるべき」と発言したことで円高の動きに。その後は重要イベントを控えて思惑による一進一退の動きが続いていたが、日銀が長短金利操作付き量的質的金融緩和の導入を決定したことで、円安が進行したものの、黒田総裁の発言により一転円高が進行。さらにFOMCにおいて利上げ見送りとなるとドル売りが進行し、100円割れ寸前まで円高が進行した。ただ22日は祝日だったものの、財務省、金融庁、日銀が国際金融市場に関する3者会合を開き円高を牽制。100円割れは回避されることとなった。



## EXTRA VISION

**今後の展開:** 夏枯れ相場もあけた9月。最大の関心事は、中旬に控えていた日銀金融政策決定会合とFOMCであった。経済指標発表や要人の発言などから思惑による動きが続いていたが、結果的に日銀は追加緩和としたが期待外れ、FOMCでは利上げ見送りという内容だった。ただ、100円割れとならなかったことや要人の円高牽制発言もあり円高の流れは一旦収束しつつある。一般的に10月に入ると稲穂相場と呼ばれ機関投資家などが株を買おう傾向があり、株価が上がりやすいといわれる。為替もこの流れに連動していけるかどうか期待したいところだが、米国大統領候補のクリントン氏とトランプ氏の優劣によって米ドルの方向性も変わってくるため、まだまだ波乱含みとも言えそうだ。

今月の主な経済指標 ※ 日本時間

| 日付          | 時間      | 国   | 指標名                  | 重要度   |
|-------------|---------|-----|----------------------|-------|
| 10 / 5 (水)  | 21 : 15 | J P | ADP雇用統計              | ☆☆☆☆  |
| 10 / 7 (金)  | 21 : 30 | U S | 米雇用統計                | ☆☆☆☆☆ |
| 10 / 13 (木) | 21 : 30 | U S | 小売売上高                | ☆☆☆☆  |
| 10 / 18 (火) | 21 : 30 | U S | 消費者物価指数 (C P I)      | ☆☆☆☆  |
| 10 / 20 (木) | 20 : 45 | E U | 欧州中央銀行 (E C B) 政策金利  | ☆☆☆☆  |
| 11 / 1 (火)  | ** : ** | J P | 日銀金融政策決定会合           | ☆☆☆☆  |
| 11 / 3 (木)  | 3 : 00  | U S | 米連邦公開市場委員会 (F O M C) | ☆☆☆☆☆ |